

公開シンポジウム

# Manga & Shunga

## —大英博物館で日本を展示する

Manga & Shunga: Representing Japan at the British Museum

2019年11月28日(木) 18:00—20:30

立教大学 池袋キャンパス 11号館2階 A203教室

入場無料・事前申込み不要(先着順・定員200名)

使用言語：日本語



大英博物館の日本ギャラリーでは、2013年にShunga展を、次いで2019年にManga展を開催しました。大英博物館で春画、漫画というのは少々意外な取り合わせでしたが、それだけにShunga展については主に日本の国内で色々な意見が飛び交い、一方、Manga展をめくっても足元のイギリスで賛否を含めたさまざまな議論が交わされました。

博物館や美術館で、展示を通して自他の文化を、ひいては自己と他者をかたるというのは、どういふことなのでしょう。この問題はすでに、表象の権力という視点から、1980年代以降とくに英語圏でさかんに論じられてきました。今回はその可能性と課題を、Shunga展とManga展における具体的な事実を踏まえながら、あらためて掘り下げてみたいと思います。どうぞふってご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

ニコル C. ルマニエール 氏

**Nicole Coolidge Rousmaniere**

イースト・アングリア大学教授、セインズベリー日本芸術研究所研究員、2019年まで大英博物館学芸員を兼務、Ph. D. (Harvard Univ.)。2019年度立教大学招へい研究員。

著書に、『Kazari: Decoration and Display in Japan, 15th-19th Centuries, British Museum Press, 2002, Crafting Beauty in Modern Japan, British Museum Press, 2007など多数。



木下 直之 氏

**Naoyuki Kinoshita**

静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授。著書に、『美術という見世物—油絵茶屋の時代』平凡社、1993年(サントリー学芸賞)、『わたしの城下町』筑摩書房、2007年(芸術選奨文部科学大臣賞)、『銅像時代 もうひとつの日本彫刻史』岩波書店、2014年、『動物園巡礼』東京大学出版会、2018年など多数。2015年 紫綬褒章、2017年 中日文化賞。



立教大学

主催  
後援

立教大学 学校・社会教育講座  
美術史学会、文化資源学会

学芸員課程 (お問合せ 03-3985-2575)